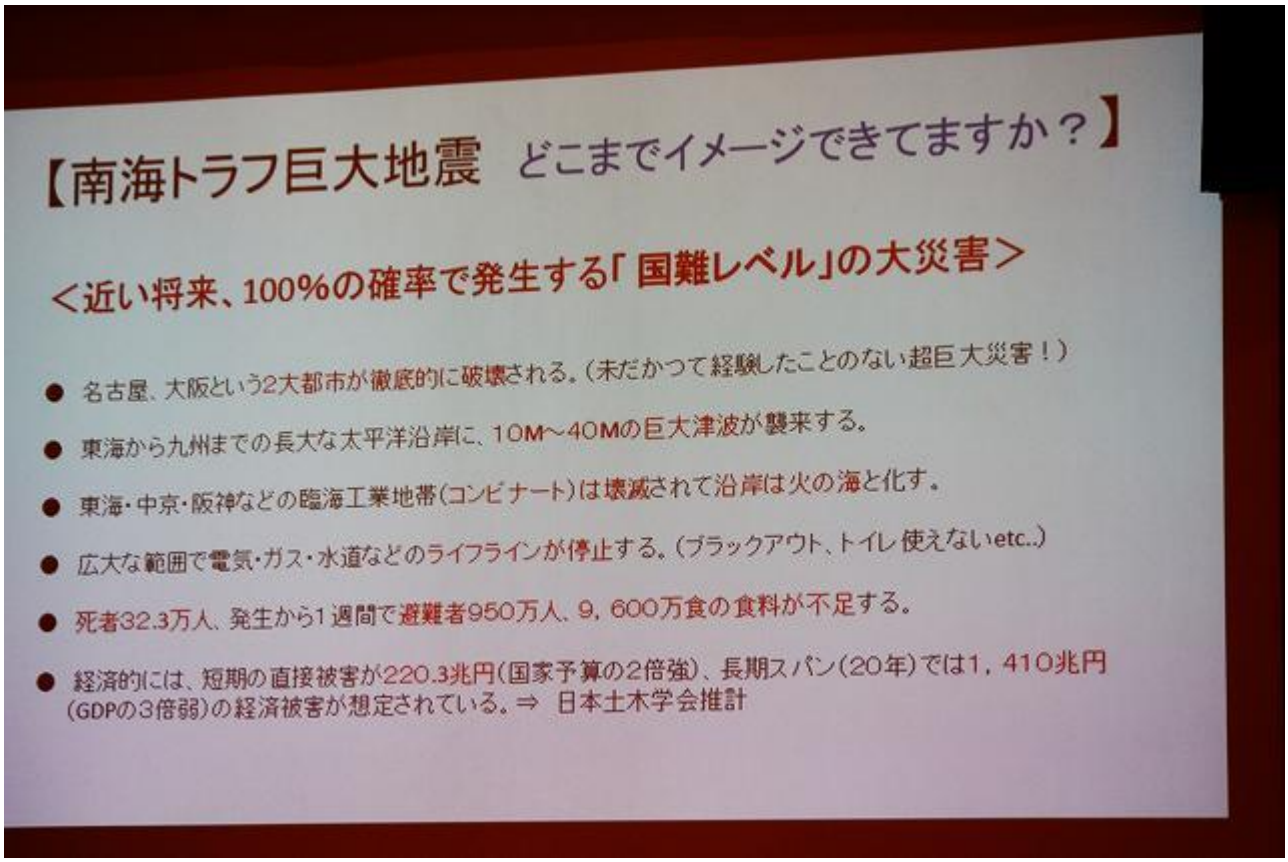
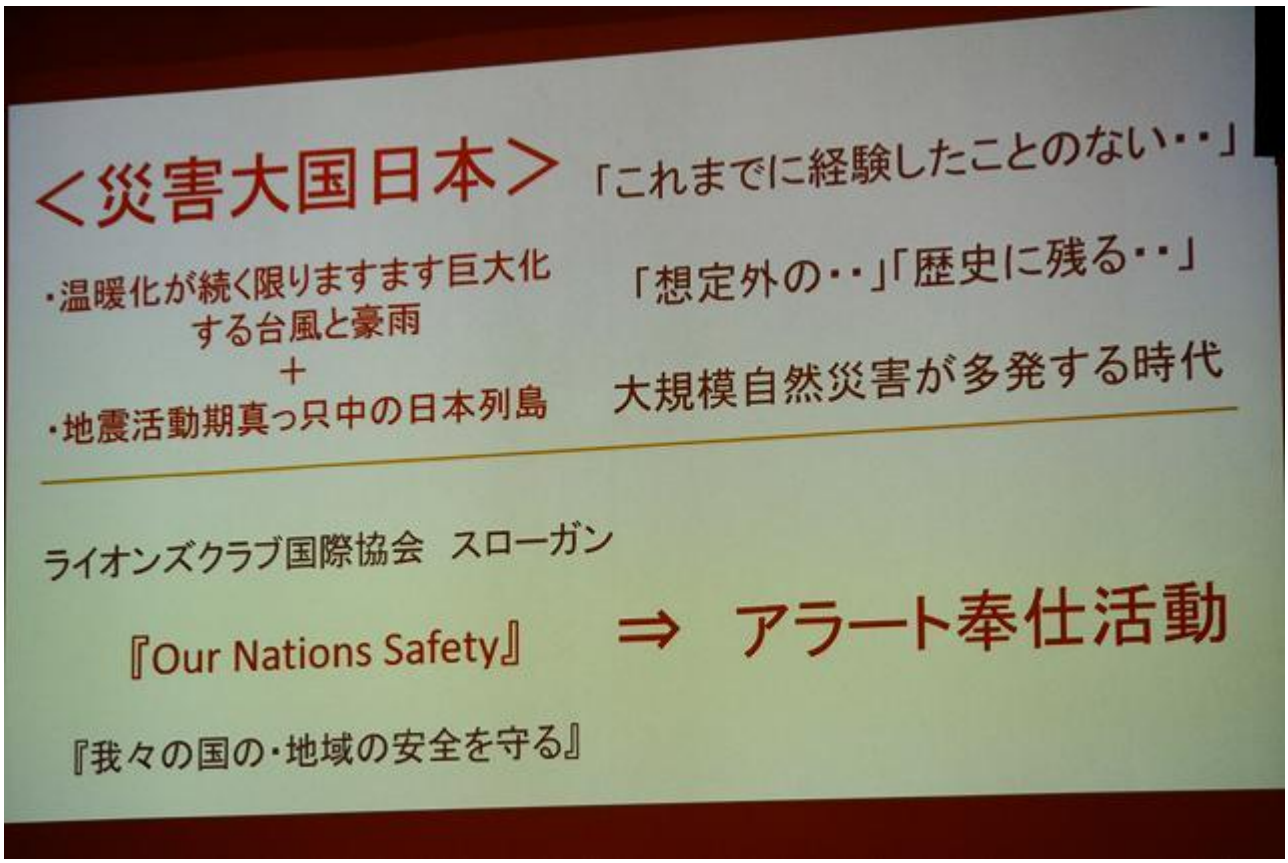
【第１回全国アラート委員会　講演　待ったなしアラート委員会組織作り】L.新垣

『南海トラフト大地震に備える』

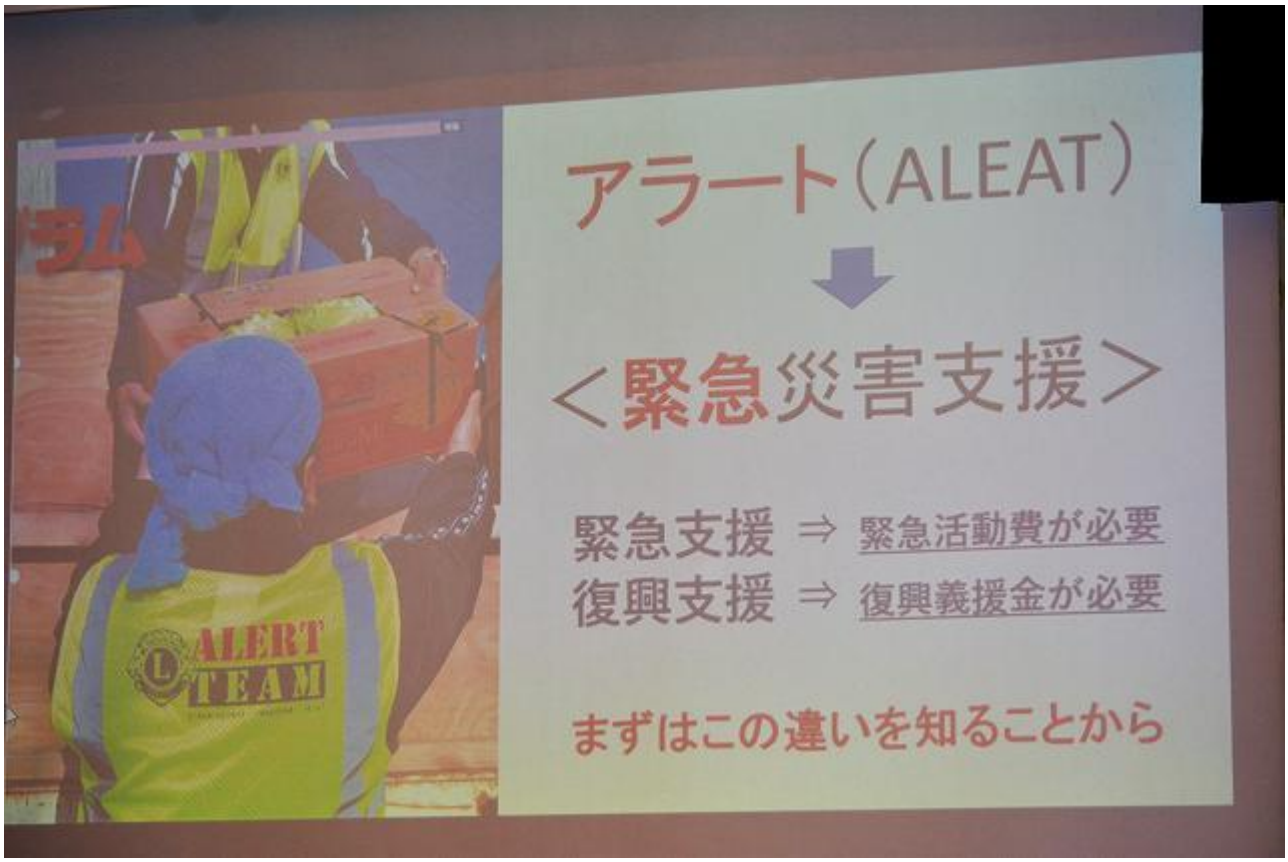
No.1

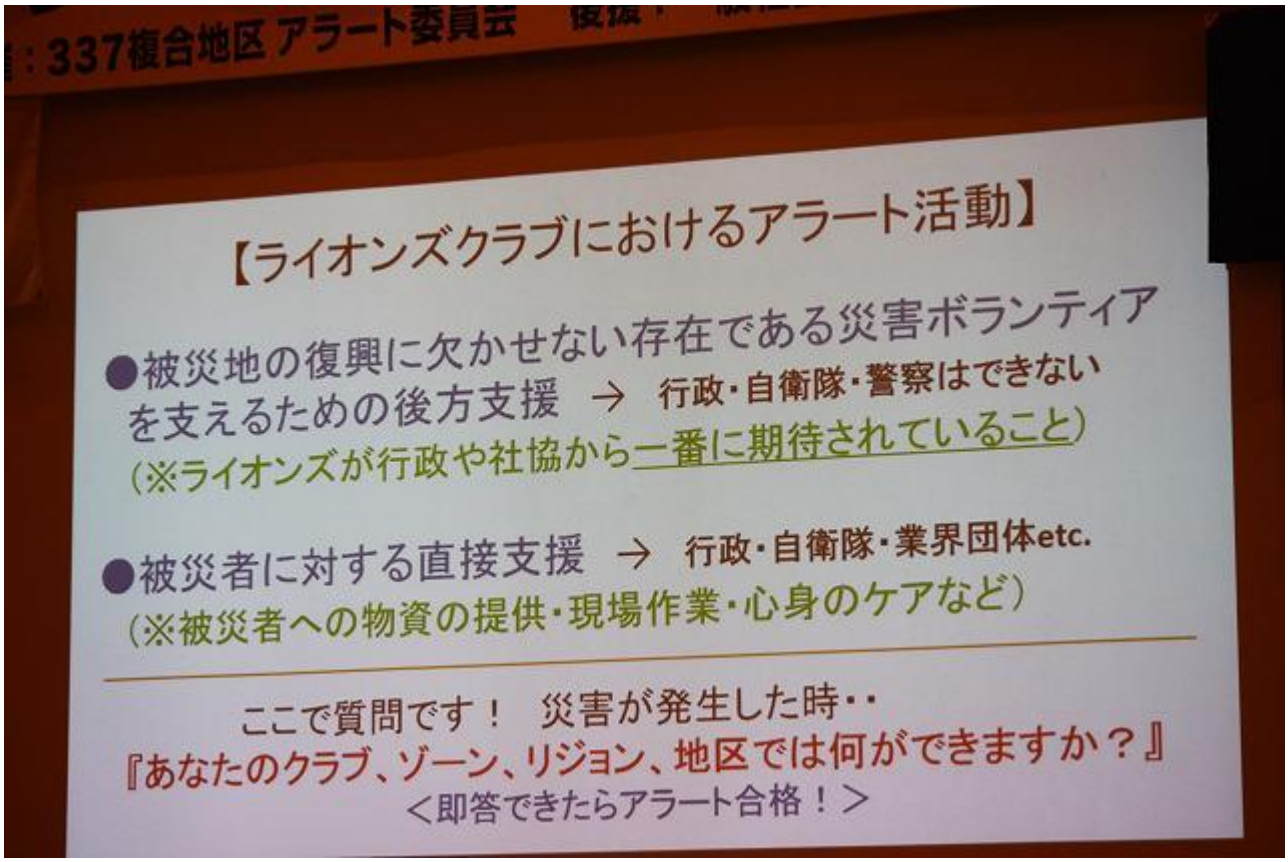
No.2


【南海トラフ巨大地震　どこまでイメージできてますか？】
＜近い将来、100%の確率で発生する「国難レベル」の大災害＞
● 名古屋、大阪という2大都市が徹底的に破壊される。（未だかつて経験したことのない超巨大災害！）
● 東海から九州までの長大な太平洋沿岸に、10M～40Mの巨大津波が襲来する。
● 東海・中京・阪神などの臨海工業地帯（コンビナート）は壊滅されて沿岸は火の海と化す。
● 広大な範囲で電気・ガス・水道などのライフラインが停止する。（ブラックアウト、トイレ使えないetc..）
● 死者32.3万人、発生から1週間で避難者950万人、9，600万食の食料が不足する。
● 経済的には、短期の直接被害が220.3兆円（国家予算の2倍強）、長期スパン（20年）では1，410兆円（GDPの3倍弱）の経済被害が想定されている。⇒ 日本土木学会推計

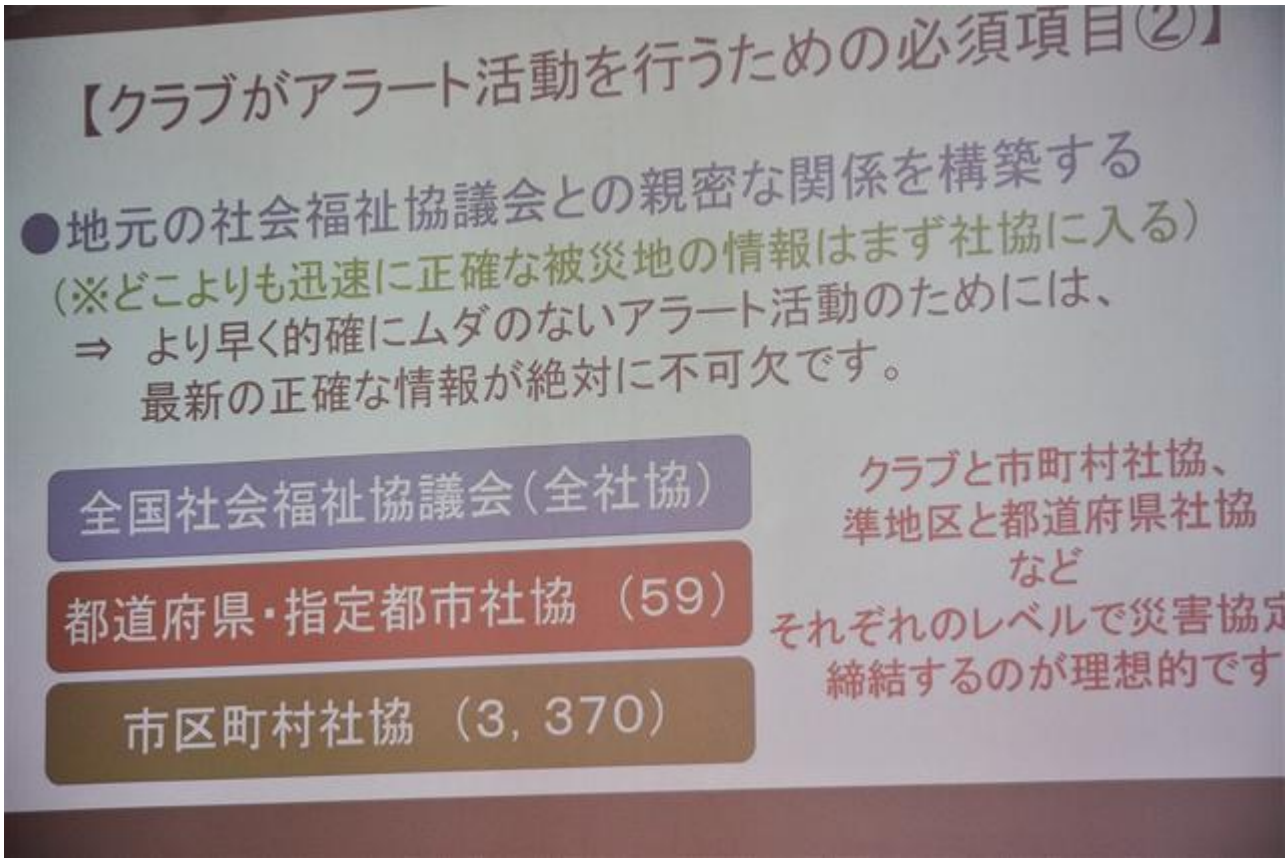

＜災害大国日本＞
「これまでに経験したことのない・・」
・温暖化が続く限りますます巨大化する台風と豪雨
＋
・地震活動期真っ只中の日本列島
「想定外の・・」「歴史に残る・・」
大規模自然災害が多発する時代
ライオンズクラブ国際協会　スローガン
『Our Nations Safety』
⇒　アラート奉仕活動
『我々の国の・地域の安全を守る』

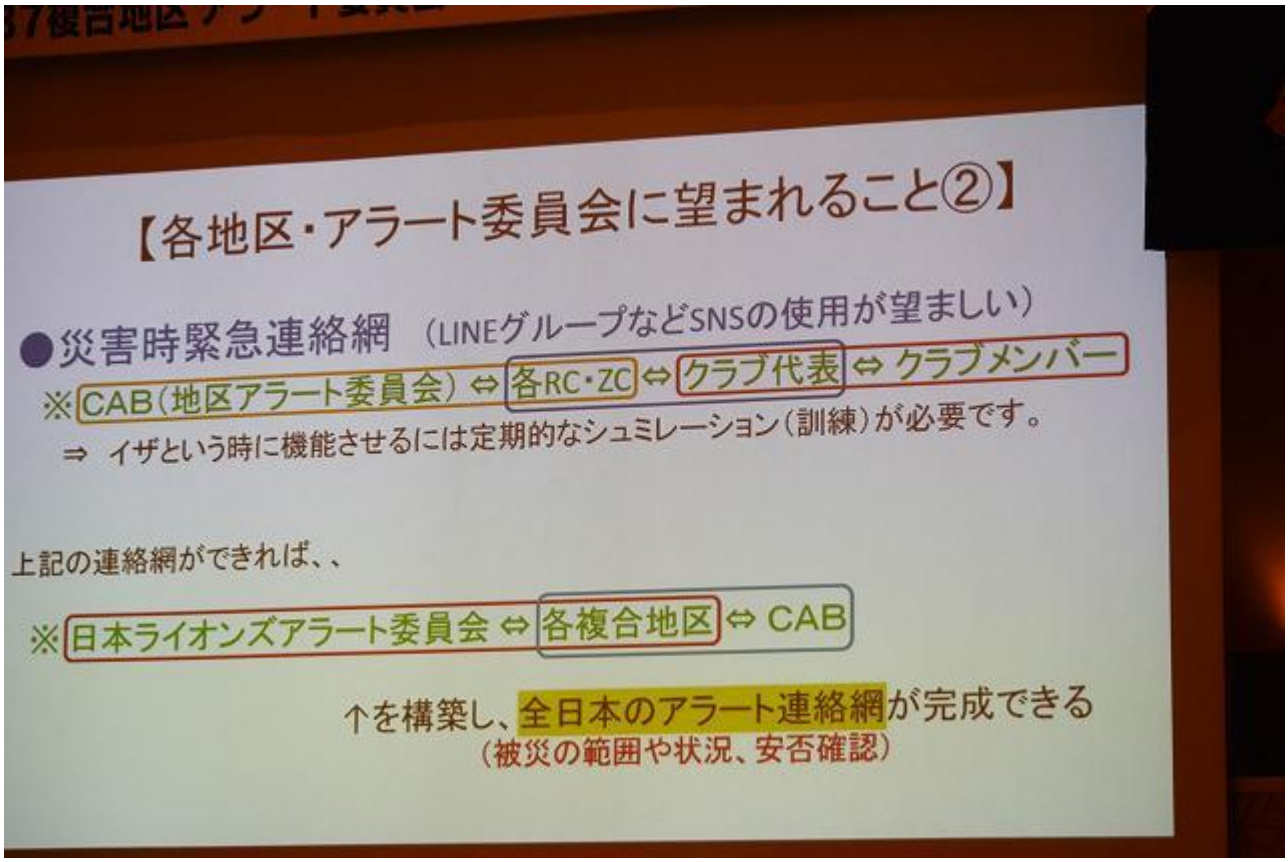
No.3

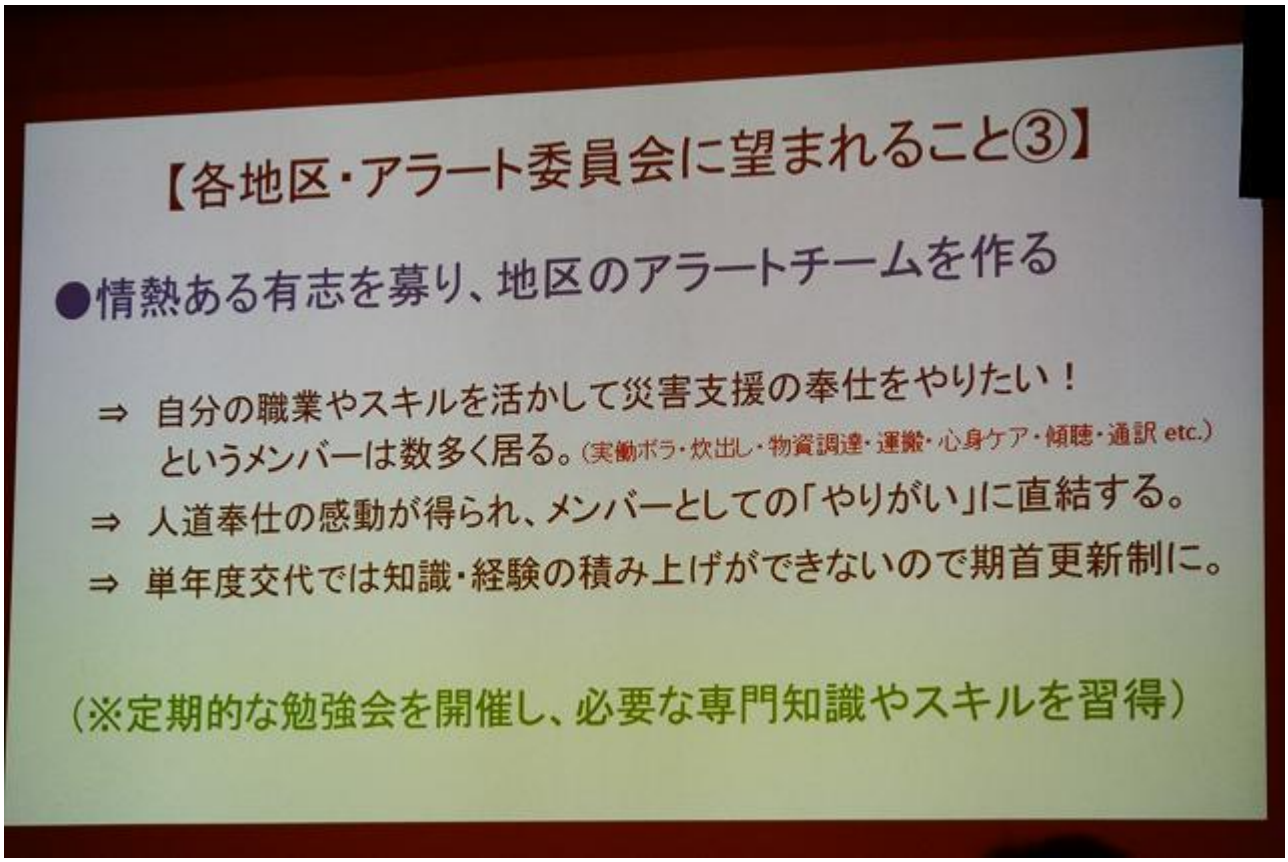

アラート（ALEAT）
＜緊急災害支援＞
緊急支援 ⇒ 緊急活動費が必要
復興支援 ⇒ 復興義援金が必要
まずはこの違いを知ることから
ALERT TEAM

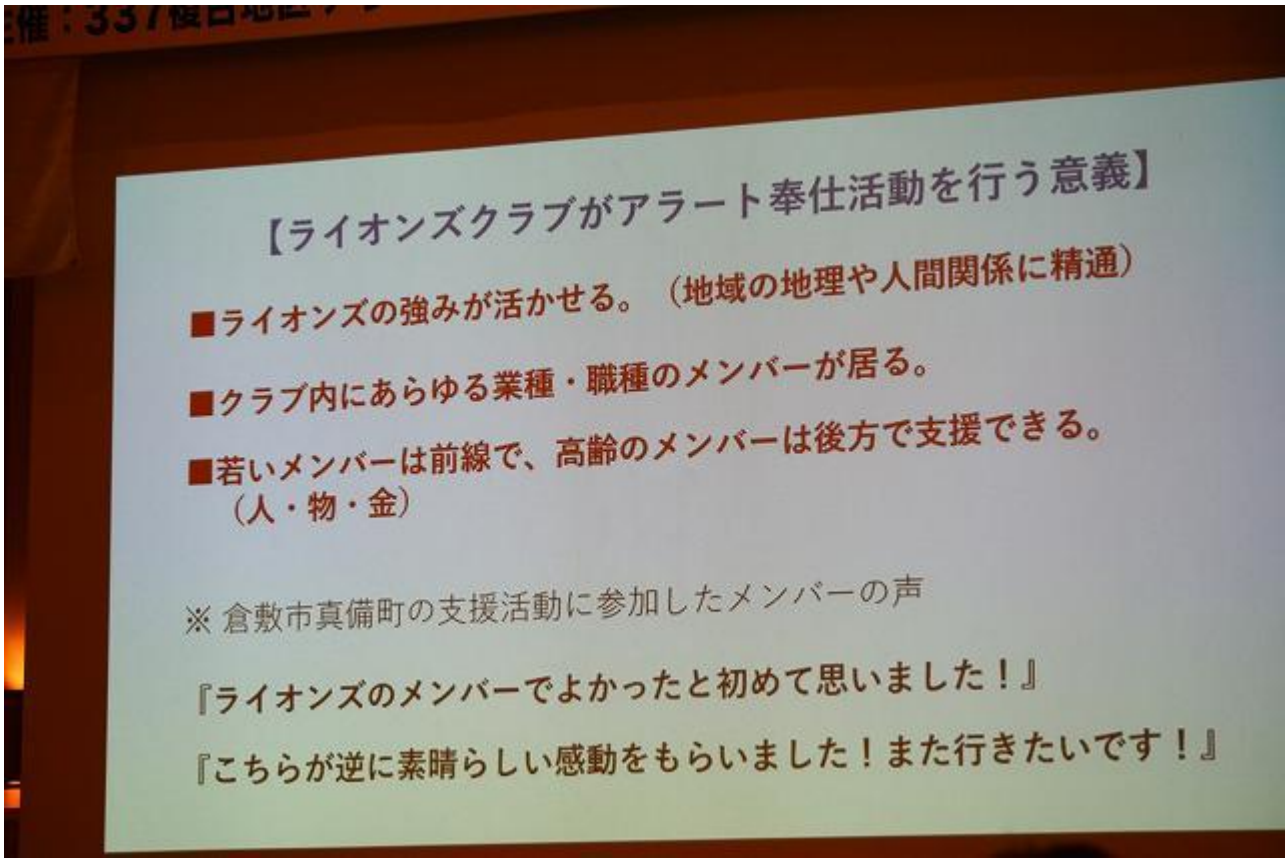

：337複合地区 アラート委員会
【ライオンズクラブにおけるアラート活動】
●被災地の復興に欠かせない存在である災害ボランティア
を支えるための後方支援 → 行政・自衛隊・警察はできない
（※ライオンズが行政や社協から一番に期待されていること）
●被災者に対する直接支援 → 行政・自衛隊・業界団体etc.
（※被災者への物資の提供・現場作業・心身のケアなど）
ここで質問です！ 災害が発生した時・・
『あなたのクラブ、ゾーン、リジョン、地区では何ができますか？』
＜即答できたらアラート合格！＞

No.4

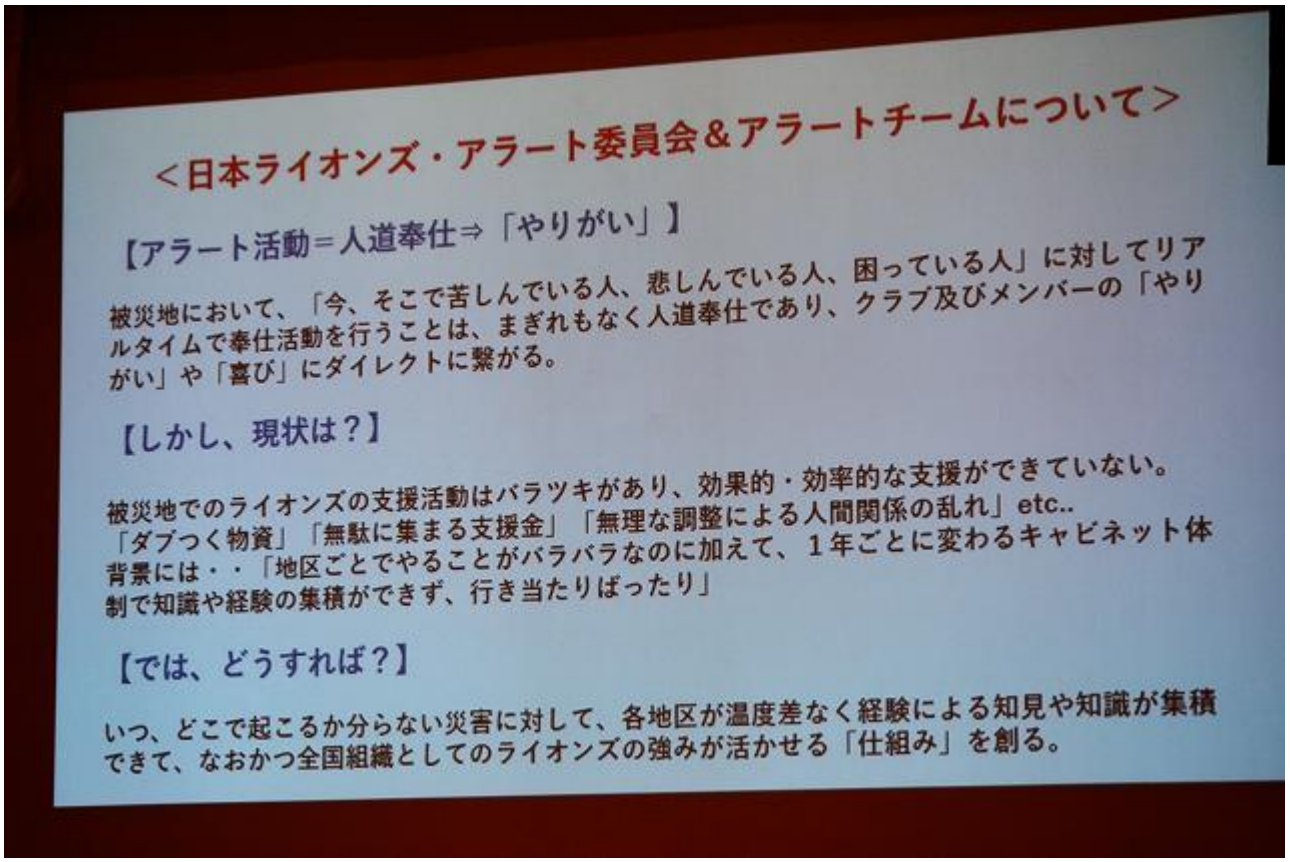

【クラブがアラート活動を行うための必須項目②】
●地元の社会福祉協議会との親密な関係を構築する
（※どこよりも迅速に正確な被災地の情報はまず社協に入る）
⇒ より早く的確にムダのないアラート活動のためには、
最新の正確な情報が絶対に不可欠です。
全国社会福祉協議会（全社協）
都道府県・指定都市社協 （59）
市区町村社協 （3，370）
クラブと市町村社協、
準地区と都道府県社協
など
それぞれのレベルで災害協定
締結するのが理想的です

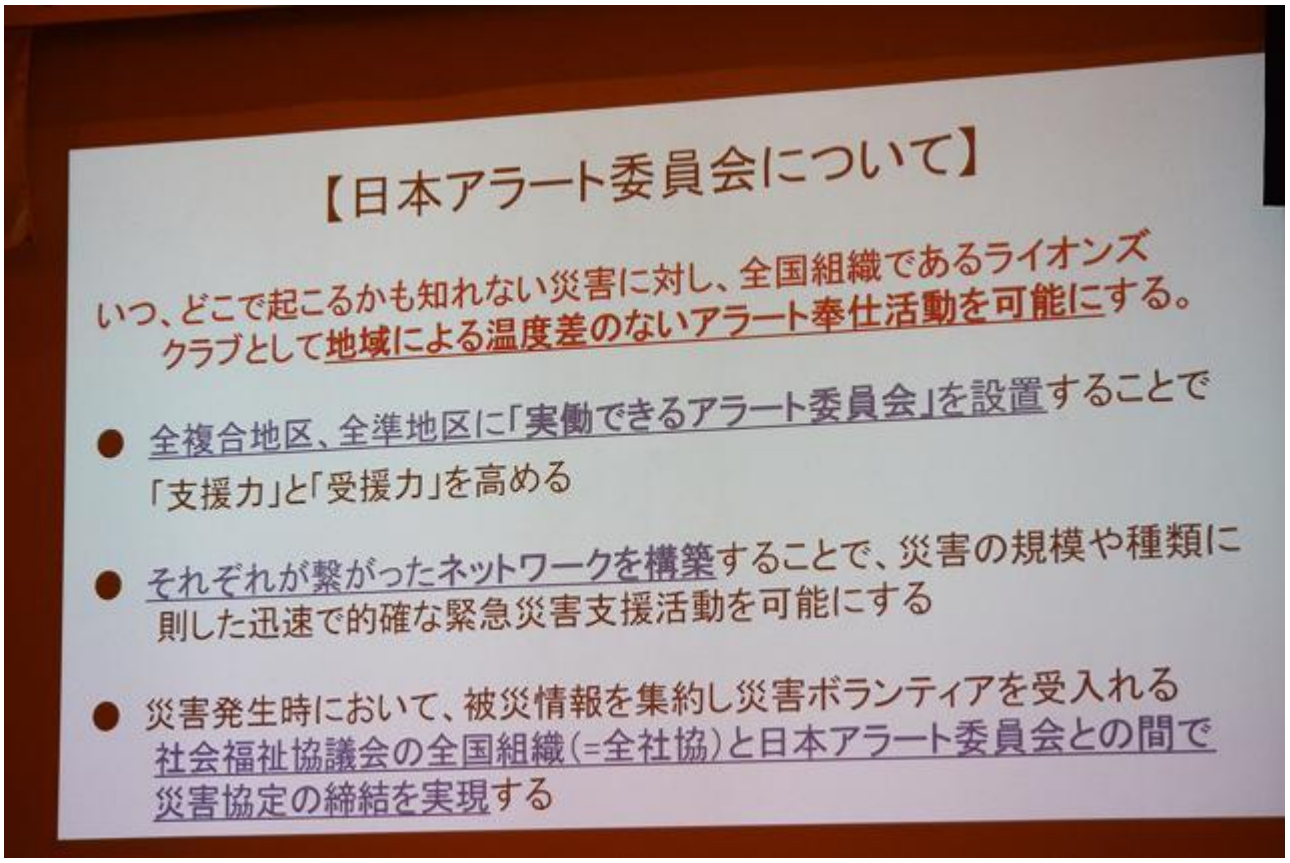

【各地区・アラート委員会に望まれること②】
●災害時緊急連絡網 （LINEグループなどSNSの使用が望ましい）
※CAB（地区アラート委員会）⇔各RC・ZC⇔クラブ代表⇔クラブメンバー
⇒ イザという時に機能させるには定期的なシュミレーション（訓練）が必要です。
上記の連絡網ができれば、、
※日本ライオンズアラート委員会⇔各複合地区⇔CAB
↑を構築し、全日本のアラート連絡網が完成できる
（被災の範囲や状況、安否確認）

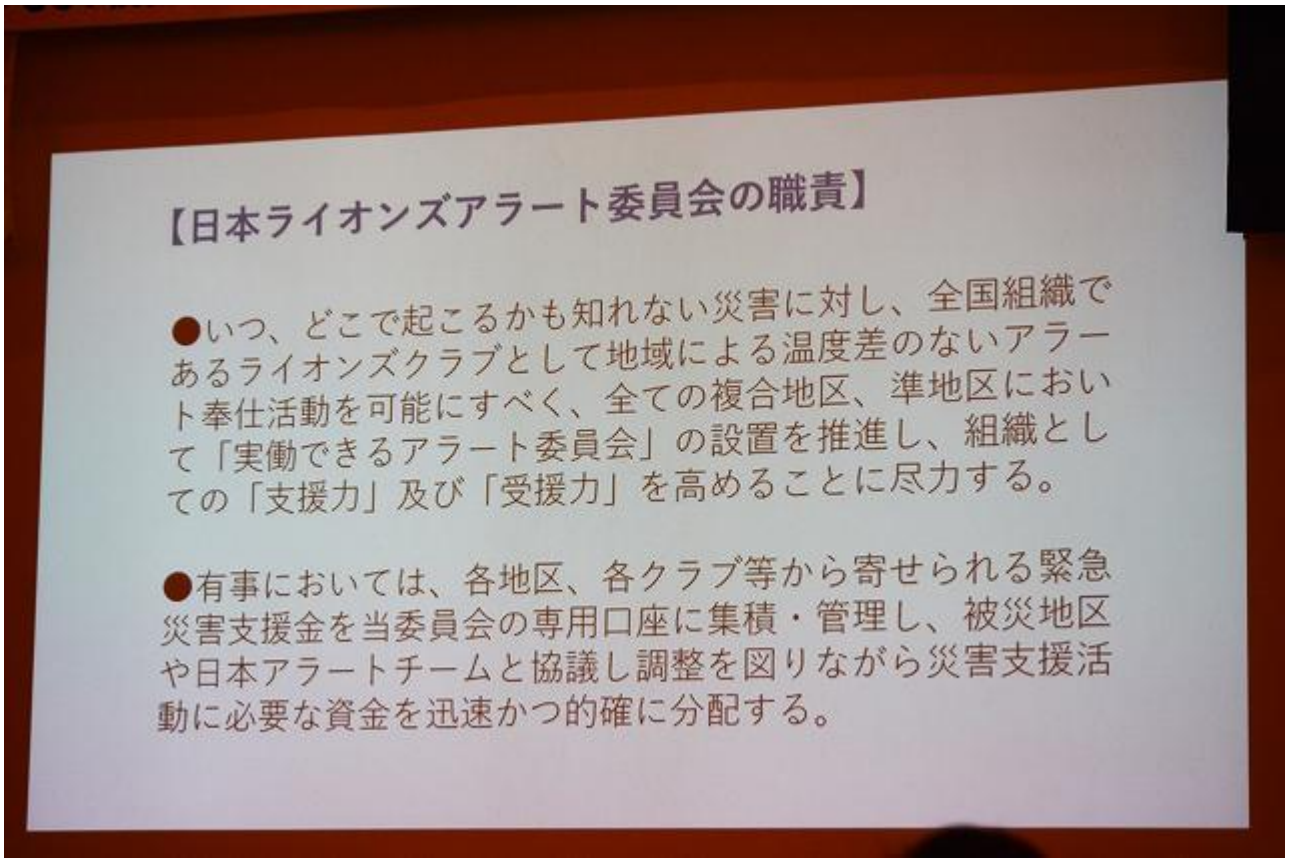

【各地区・アラート委員会に望まれること③】
●情熱ある有志を募り、地区のアラートチームを作る
⇒ 自分の職業やスキルを活かして災害支援の奉仕をやりたい！
というメンバーは数多く居る。(実働ボラ・炊出し・物資調達・運搬・心身ケア・傾聴・通訳 etc.)
⇒ 人道奉仕の感動が得られ、メンバーとしての「やりがい」に直結する。
⇒ 単年度交代では知識・経験の積み上げができないので期首更新制に。
(※定期的な勉強会を開催し、必要な専門知識やスキルを習得)

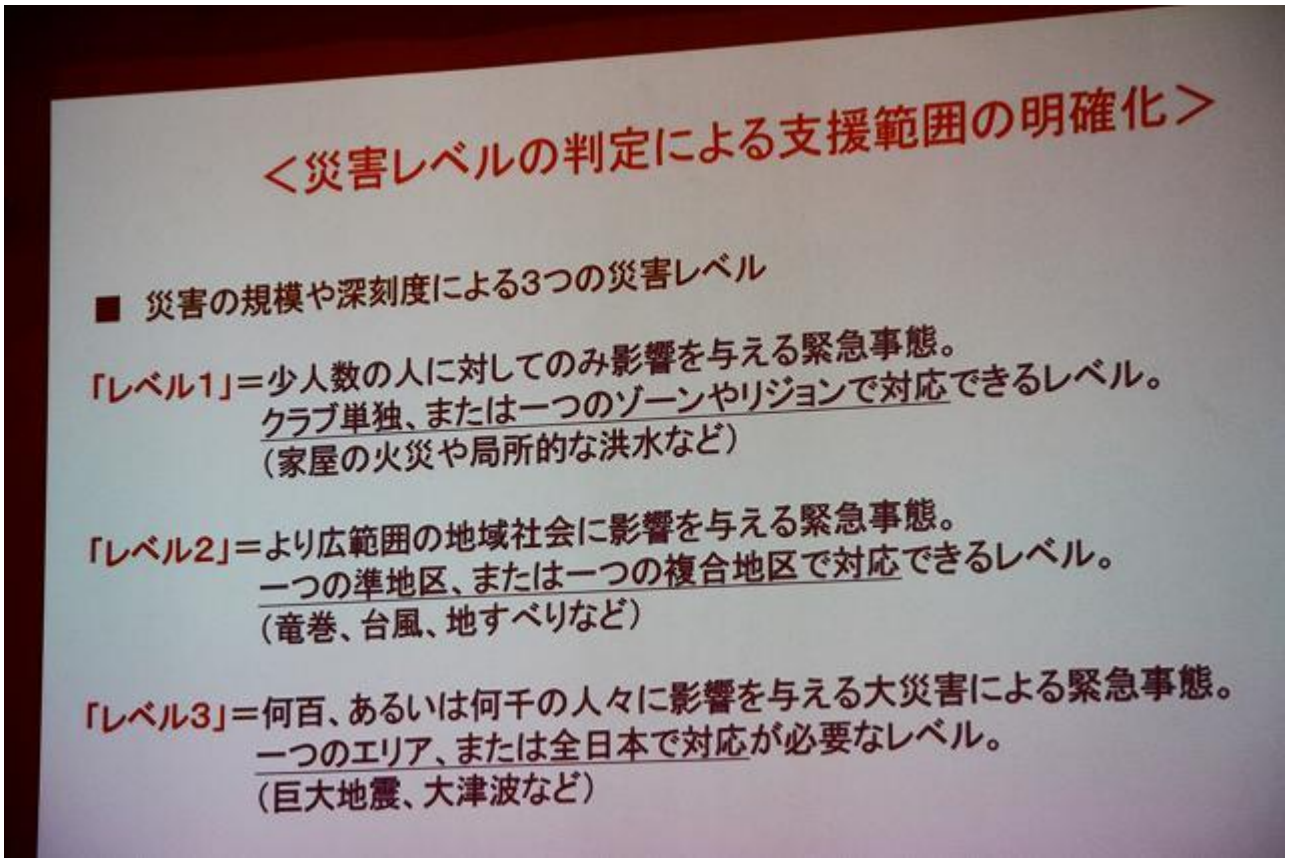

【ライオンズクラブがアラート奉仕活動を行う意義】
■ライオンズの強みが活かせる。（地域の地理や人間関係に精通）
■クラブ内にあらゆる業種・職種のメンバーが居る。
■若いメンバーは前線で、高齢のメンバーは後方で支援できる。
（人・物・金）
※ 倉敷市真備町の支援活動に参加したメンバーの声
『ライオンズのメンバーでよかったと初めて思いました！』
『こちらが逆に素晴らしい感動をもらいました！また行きたいです！』

頑張れ！
倉敷真備ライオンズクラブ


<日本ライオンズ・アラート委員会＆アラートチームについて>
【アラート活動＝人道奉仕⇒「やりがい」】
被災地において、「今、そこで苦しんでいる人、悲しんでいる人、困っている人」に対してリアルタイムで奉仕活動を行うことは、まぎれもなく人道奉仕であり、クラブ及びメンバーの「やりがい」や「喜び」にダイレクトに繋がる。
【しかし、現状は？】
被災地でのライオンズの支援活動はバラツキがあり、効果的・効率的な支援ができていない。
「ダブつく物資」「無駄に集まる支援金」「無理な調整による人間関係の乱れ」etc..
背景には・・「地区ごとでやることがバラバラなのに加えて、１年ごとに変わるキャビネット体制で知識や経験の集積ができず、行き当たりばったり」
【では、どうすれば？】
いつ、どこで起こるか分らない災害に対して、各地区が温度差なく経験による知見や知識が集積できて、なおかつ全国組織としてのライオンズの強みが活かせる「仕組み」を創る。


【日本アラート委員会について】
いつ、どこで起こるかも知れない災害に対し、全国組織であるライオンズクラブとして地域による温度差のないアラート奉仕活動を可能にする。
● 全複合地区、全準地区に「実働できるアラート委員会」を設置することで「支援力」と「受援力」を高める
● それぞれが繋がったネットワークを構築することで、災害の規模や種類に則した迅速で的確な緊急災害支援活動を可能にする
● 災害発生時において、被災情報を集約し災害ボランティアを受入れる社会福祉協議会の全国組織（=全社協）と日本アラート委員会との間で災害協定の締結を実現する


【日本ライオンズアラート委員会の職責】
●いつ、どこで起こるかも知れない災害に対し、全国組織であるライオンズクラブとして地域による温度差のないアラート奉仕活動を可能にすべく、全ての複合地区、準地区において「実働できるアラート委員会」の設置を推進し、組織としての「支援力」及び「受援力」を高めることに尽力する。
●有事においては、各地区、各クラブ等から寄せられる緊急災害支援金を当委員会の専用口座に集積・管理し、被災地区や日本アラートチームと協議し調整を図りながら災害支援活動に必要な資金を迅速かつ的確に分配する。


<災害レベルの判定による支援範囲の明確化>
■ 災害の規模や深刻度による3つの災害レベル
「レベル1」＝少人数の人に対してのみ影響を与える緊急事態。
クラブ単独、または一つのゾーンやリジョンで対応できるレベル。
（家屋の火災や局所的な洪水など）
「レベル2」＝より広範囲の地域社会に影響を与える緊急事態。
一つの準地区、または一つの複合地区で対応できるレベル。
（竜巻、台風、地すべりなど）
「レベル3」＝何百、あるいは何千の人々に影響を与える大災害による緊急事態。
一つのエリア、または全日本で対応が必要なレベル。
（巨大地震、大津波など）